



# 広島平和記念式典派遣事業

8月6日に広島市平和記念公園で行われた平和記念式典に小野中学生3人が参加しました。

今回の広島派遣を通して感じた思いを綴ってもらいました。



◀おりづるタワーで記念撮影



◀原爆ドームを見学

## 2年1組 村上優衣



「ドーン」という鼓膜が破れるほどの大きな音。立ち昇る黒味がかった朱色の雲。人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で埋め尽くされたまち。あの時の恐怖は今でも忘れられない。原子爆弾投下により多くの人々の命と色鮮やかな日常、笑顔が一瞬にして奪われた広島。これを実際に体験した人は「あの時の広島は地獄だった」と言っていました。まさにその通りだと思います。焼け野原の中をさまよって死んでしまう世界。当時の人々はどれだけつらかったのだろうか、どれだけ苦しかったのだろうか、考えるだけで鳥肌が立ちました。

式中には平和の象徴である鳩が空に放たれ、感激の声が上がりました。人々はこの鳩に「平和でいられるように」と願いを寄せているのでしょうか。私も「日本がこのまま平和で豊かな国でありたい」と願いました。

平和記念資料館には、たくさんの遺品や写真が展示されていて、写真に目を移したとたん、「うっ」と嘔吐してしまいたいようなものもありました。やけどを負い、顔の部位の見分けがつかないくらいになった人や、傷口からうじ虫がわいた人の写真がたくさんあり、見るのがすごく怖かったです。まるで自分も79年前の広島にいるような感覚で、今すぐその場から立ち去りたいと思うほどでした。遺品からは被爆者の痛み、苦しさが伝わってきました。小学生が着用していたもんぺや帽子、黒く炭になったご飯が入っているお弁当、水筒なども展示されていて、次の展示物へと移動するたびに身を切られる思いになり、涙がこぼれました。

私は、今回の広島派遣事業を通してあらためて命の尊さと核兵器の恐ろしさを学びました。今までは「広島は原爆が落とされたんだ。切ないなあ」ぐらいで終わっていましたが、この3日間で広島への原爆投下について

深く考えることができたと思います。また、これからも平和な日本で在り続けるために自分は何ができるのか3つのことを考えました。

1つ目は、友達と協力することです。何事も一人でやり遂げることなど到底不可能。運動にも勉強にも各行事でもみんな協力して一つ一つ乗り越えていくことが大切だと思います。2つ目は、ご飯を食べられることに感謝をしていただくということ。毎日温かい栄養満点のご飯を食べて元気でいられることを当たり前だと思わず、「いただきます」「ごちそうさまでした」の一言を言うとうれいと思えます。好き嫌いせずに食べることも大切です。3つ目は、生きていくことに感謝し、命を大切にすること。生きたくても生きることができなかった人の分まで私達は生きなくてはならない。自分が持っている大きな夢を達成しなくてはならない。今はつらいと思うけれど、乗り越えれば復興後の広島、現在の広島のように明るい未来が待っていると思います。

この3つの目標はみんなが意識できるものです。私達が住む日本がこれからも平和であり続けるために皆さんも小さなことから実践してみたいかがでしょうか。

## 2年2組 六戸万葉



私は広島派遣事業のメンバーに選ばれ、事業の内容を詳しく知った時に、平和のことについて考える貴重な機会だからこそ、この機会を大事にしたいと感じました。

8月6日に開催された広島平和記念式典に参加してきました。岸田総理大臣など大勢の方々が来ていましたが、ここでは広島の小中学生2人が発表した平和への誓いがとても印象的でした。「願うだけでは、平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。一人一人が相手の話をよく聞くこと。「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。それが私たちにもできる平和への「一歩」だと言っていました。私は小学生がこのような平和や命のことを重く考え、みんなの前で発表していることに感動しました。

続いて、「ひろしま子ども平和の集い」に参加しました。ここでは実際に被爆した人の体験談や原爆にまつわる詩の朗読、中学生や高校生たちによる「平和の取組発表」が行われました。体験談では、投下後に被爆者の方がどれだけ大変で苦しかったかを学ぶことができました。たくさんの方々が顔もわからないほどのやけどやけがを負い、お腹も空いていて、水も飲めず死んでしまうなど、本当に辛い体験をしたのだと胸が痛くなりました。

8月7日は平和記念資料館を見学しました。そこには原爆によって壊れた家の破片や、ぼろきれのようになってしまった服、やけどで皮膚がボロボロになっている人の写真や、被爆した人が描いた原爆投下当時の燃えさかる町や家族を探してさまよった人々の絵などがありました。私はそういった展示物を見てショックを受けるとともに、「もう二度とこの悲劇を繰り返してはいけない」とあらためて心に刻みました。

もう一つ、この旅で心に残ったのが広島町の町並みです。戦争から80年近く経っているということもありますが、広島のは、私が資料館で見たあの焼け野原の写真とは全く違ったとて

## 2年1組 新田朔也



私が広島派遣事業に参加したのは、原爆が落とされた現地に赴き、実際に見聞した上で、核兵器の恐ろしさや戦争をしてはいけないことを、学校の友達、家族、町民の方々に伝えたいと思ったからです。

広島には、皆さんがご存じの通り原爆ドームがあります。私はそのすぐそばにある「おりづる

タワー」に上り、上空から原爆ドームの内部を見ました。そこには、原爆で吹き飛ばされた建物の破片などが当時のまま残っていました。平和記念資料館では、私が想像していたよりも残酷な全身火傷を負った人たちの写真などがありました。あらためて戦争の悲惨さ、残酷さを感じずにはいられませんでした。

平和記念式典では岸田総理大臣をはじめ、国内外の政治家の方々などがいらつしやいました。岸田総理は、「これからの日本をより平和に、そして戦争のない国づくりに励みます」などとおっしゃっていました。「もう二度と戦争を起さない」という強い意思が、岸田総理の表情から感じ取れました。そして、原爆が落とされた8時15分の黙祷の時は原爆犠牲者の方々へご冥福をお祈りするとともに、当時のこの時間帯に原爆が落とされたこと、14万人の方が無念にも亡くなられたこと、戦争は起こしてはいけないことをあらためて考えていました。テレビで見るだけでは得られない特別な時間を過ごすことができました。

次に、「ひろしま子ども平和の集い」に参加しました。冒頭では、自分とほとんど同年代の時に被爆したという80代の女性が被爆体験講話をしてくださ

した。その方は当時中学1年生で、飛行機の翼を作る作業をしていました。昭和20年8月6日、いつも通りに作業をしていると、工場の窓からとつもない光が見えたそうです。それが爆弾だとわかり、とつさに飛行機の下に隠れたそうです。当たり前の日常が原爆によって簡単に壊れてしまう怖さを感じ、涙が出そうでした。

講話の後は、広島県内外の中高生による発表がありました。その中で印象に残ったのは、「いじめという醜い行動が大きくなり戦争に繋がる」という発表でした。私はとても共感をもてました。戦争のない平和な世界を心から望みます。広島派遣事業を通してさまざまなことを学び、貴重な時間を過ごすことができました。



### 小野町戦没者追悼式

戦没者を偲び恒久平和への誓いを新たに

町主催、小野町遺族会共催による令和6年度小野町戦没者追悼式が9月27日、セレモニーホールくさので行われ、戦没者の遺族および議会議員のほか、行政区長会、民生・児童委員協議会の各代表者が参列しました。

式典では参列者全員で国歌を斉唱し黙とうを行った後、町長が「先人たちが築き上げてきた歴史、文化を糧としながら、町の発展のため、あらん限りの力を尽くし、力強く歩んでいくことをお誓い申し上げます」と式辞を述べました。

続いて、来賓を代表して、田村弘文議会議長、中原貞一小野町遺族会会長が追悼の言葉を述べ、参列者一人ひとりが戦没者を偲び献花をして恒久平和を祈りました。



追悼の言葉を述べる中原貞一遺族会長

### 全国大会出場者へ激励金交付

全国大会に出場する坂詰優斗さん(三・春中3年・谷津作)に対し、小野町文化・体育振興基金から激励金が贈られました。町長からは「日頃の練習の成果を思う存分発揮し、悔いのないように頑張ってください」と激励のことが送られました。

坂詰さんは、令和6年度全国中学校体育大会第55回全国中学校柔道大会男子90kg超級に出場しました。大会は8月20日から23日にかけて、全国代表48人によるトーナメント形式で行われ、準々決勝まで勝ち進み、ベスト8に輝く健闘を見せました。



坂詰優斗さん(右)



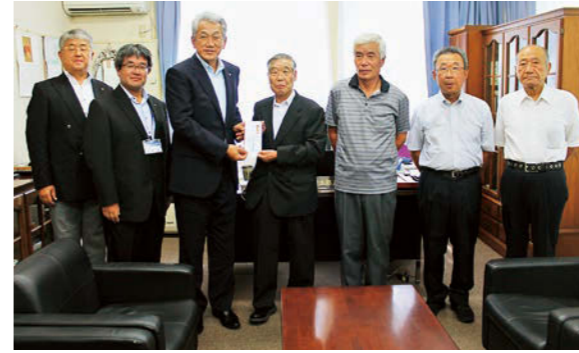
齋藤升男さん(右)

医療法人さいとう医院理事長の齋藤升男様から町にご寄付をいただきました。

学校医として、また長年にわたり体育協会など、町の教育分野に携わってこられたことから、「教育全般に役立ててほしい」とご寄付をいただいたものです。

このたびのご厚意に対し、紙上より厚くお礼申し上げます。

ご寄付ありがとうございます



右から(自衛隊家族会)の大竹相談役、鈴木副会長、渡邊副会長、吉成会長

小野町自衛隊家族会様ならびに平館行政区様から、文化・体育振興基金にご寄付をいただきました。

この基金は、小・中・高校生の全国大会出場時の激励金や表彰、スポーツ少年団などへの補助や活動費など、有効に活用させていただきます。

このたびのご厚意に対し、紙上より厚くお礼申し上げます。

### 「交通事故防止啓発看板」設置

田村地区交通安全協会小野支部飯豊分会

田村地区交通安全協会小野支部飯豊分会において、「交通事故防止啓発看板」を設置しました。

これは、悲惨な交通事故を減らすため、田村警察署小野分庁舎および飯豊駐在所のご指導をいただき作成したものです。

日頃から啓発活動を行っていますが、あらためて周知を図り、交通事故を未然に防ぐため、より一層努めてまいります。

ドライバーの皆さん、これからのある運転に努めましょう。



啓発看板設置の様子

### 固定資産評価審査委員会委員に郡司初夫さんを選任(再任)

小野町固定資産評価審査委員会委員の任期満了に伴い9月30日、町長室において、郡司初夫さん(谷津作)に委員の辞令が交付されました。

郡司さんは令和3年から委員を務められており、今回が2期目になります。

任期は3年間で、今後固定資産評価の厳正な審査をお願いするものです。



郡司初夫さん

### 第31回町民グラウンド・ゴルフ大会開催



グラウンド・ゴルフ大会の様子

第31回町民グラウンド・ゴルフ大会が8月24日に開かれました。大会には、21行政区から182人が参加しました。

当日の競技は、多目的グラウンドと野球場に設けられた32ホールで行われ、参加者の健康増進と親睦を図ることができました。成績は次のとおりです。(敬称略)



#### ■団体の部

順位	行政区	スコア
優勝	吉野辺A	241
準優勝	小野山神A	243
第3位	谷津作A	251

#### ■男子の部

順位	行政区	氏名	スコア
優勝	雁股田	荻野 和美	31
準優勝	谷津作	遠藤 英信	32
第3位	平館	白石 弘一	33
第4位	吉野辺	郡司 守進	35
第5位	小野山神	郡司 大吉	37
第6位	谷津作	村上 昭	37

#### ■女子の部

順位	行政区	氏名	スコア
優勝	小野山神	国分 ハギ	34
準優勝	吉野辺	根本 和美	35
第3位	反町	仲野谷恵子	37
第4位	湯沢	横田 雄子	37
第5位	谷津作	吉田 静子	37
第6位	仲町	吉田 千代	40

### 小野町学力向上推進事業



中学生サマー・ショートプログラム実施

中学3年生を対象にしたサマー・ショートプログラムを、7月22日から8月2日までの10日間実施しました。夏休みを迎え、部活動などがひと段落した多くの中学生が参加しました。「夏を制する者は受験を制する」と言われるように、中学3年生にとっての夏休みはとても大切な時期です。参加した3年生は真剣に学習に取り組みを進めました。1・2年生の復習を中心に学習を進めましたが、ここをしっかりと覚えておくことが大切です。

事後のアンケートで「とても満足」「まあまあ満足」と応えた3年生が97%にのぼりました。また「1・2年生の復習ができてよかった」「2週間勉強できたことが自分のものになった」「受験に向けて覚悟が決まった」など、効果を実感できる感想がたくさん書かれており、実りの多いサマー・ショートプログラムになったようです。

めざす進路実現に向けて頑張れ中学3年生！



夏休みSelf-Study Support実施

今年度から児童生徒(小学4年生から中学3年生まで)の夏休みの宿題のサポートや中学3年生の進路学習のサポートをねらいとして、多目的研修集会施設第1・第2研修室を会場として、夏休みSelf-Study Support(セルフ・スタディ・サポート)を実施しました。

8月19日から23日まで講師2人が常駐して、いつでも児童生徒の質問や相談に応じられる体制を整え、午前と午後3時間ずつの学習の場を設けました。5日間で延べ108人の児童生徒が参加しました。学校の宿題に取り組んでいる児童生徒、読書感想文を書いている児童生徒と学習内容はそれぞれでしたが、講師の先生に相談したり教えてもらったりしながら、それぞれに実りの多い学習を行うことができました。

### (仮称)小野町児童館 ~建築通信~

(仮称)小野町児童館の建築工事は、9月末現在、基礎工事、外部足場組立、駐車場の路盤が完了しました。今後は、11月の上棟に向けた木工事(建方)を引き続き行う予定です。

詳しくは町公式ウェブサイトをご覧ください。



町公式ウェブサイト



子育て支援課 ☎72-2212

### 認知症予防セミナーを開催しました



「認知症はじめて講座」  
 症状・治療・予防法について「」をテーマとした認知症予防セミナーを8月29日、勤労青少年ホームで、福島県立医科大学保健科学部作業療法学科教授 林博史先生をお招きして開催しました。

当日は、123人の多くの方に参加いただき、認知症の症状や対応策、認知症にならないための予防法について学びました。ご講演にありました予防法の一部をご紹介します。

高血圧、糖尿病、喫煙習慣が認知症の発症リスクを高めることがわかっており、食生活の改善、運動習慣、適度な睡眠(5から7時間)、笑うことにより、発症リスクを抑えることができますと述べられました。

参加者からは「今日のことを生かし認知症にならないようにしたい」「認知症の方に寄り添っていただきたい」との声をたくさんいただきました。

町では、認知症の人を含めたすべての高齢者が地域で安心して暮らすことができるまちを目指し、認知症の理解促進のためさまざまな事業を行いますので、積極的にご参加ください。

### 次期総合戦略を策定します！

#### 令和6年度第1回小野町地域創生総合戦略推進会議開催



令和6年度第1回小野町地域創生総合戦略推進会議が8月28日、役場分庁舎で行われ、会議に先立ち委嘱状が交付されました。

この会議は人口問題に特化した「小野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関する意見提案や評価を行う機関です。

会議の中では令和5年度の取り組みに対する評価のほか、改訂を迎える本年度は、デジタルの力を活用した新たな総合戦略の策定作業も行っていくことから、その体制やスケジュールについて確認しました。

今後、委員の皆さんには戦略策定のさまざまな過程においてご意見をいただきます。なお今般実施した町民等アンケートに加え、町民協働の観点によるワークショップやパブリックコメントを実施し、より多くの意見などを取り入れながら策定作業を進めますので、町民の皆さんの積極的な参加をお願いします。

#### 小野町地域創生総合戦略推進会議委員(任期：令和6年8月28日から令和8年8月27日まで) (敬称略)

氏名	所属	氏名	所属
長久保勝男	小野町商工会長	江花 潤	福島民報社田村支局長
鈴木 勲	アルパインマニファクチャリング株式会社小野町工場製造部長	坂本 龍之	福島民友新聞社田村支局長
二瓶 章一	認定農業者会長	古崎 泰介	移住者代表
山中 淳	福島県中地方振興局企画商工部長	吉田 智通	子育て世帯代表(幼)
宇治 和子	郡山女子大学短期大学部准教授	宍戸真奈美	子育て世帯代表(小)
原田 大輔	福島県立小野高等学校長	間野 泰博	子育て世帯代表(中)
佐藤 聖哉	東邦銀行小野支店長	渡辺香代子	子育て世帯代表(高)
大山 勝徳	日本大学工学部准教授		